

旭化成は、
かつてない性能を持つ
断熱材を開発。
住まいの省エネ化を進め、
熱の排出を抑えてゆきます。

都市の気温が、郊外よりも高くなるヒートアイランド現象。

その原因のひとつに、人工排熱があげられる。

夏のエアコンの室外機を思い出していただきたい。

室内を冷やした分だけ熱くなった空気が、

ファンの回転とともに吐き出されてゆく…。

冷房の効率を高め、熱の排出を抑える。

そのカギとして注目されるのが断熱材である。

外からの暑さを断ち、冷えた空気を逃がさない。

冬のイメージが強い断熱材だが、実は夏にも大きな力を発揮する。

旭化成は、極めて微細な気泡構造により、

かつてない性能(熱伝導率わずか $0.020\text{ W}/(\text{m}\cdot\text{K})$)を持つ

〈ネオマフォーム〉を開発。住まいへの利用を進めている。

写真のように、柱を外から覆う外張り工法に適しており、

より確かな断熱効果につながっている。

家が変われば、街が変わる。街が変われば、環境が変わる。

一軒一軒の家にできることは、大きい。

昨日まで世界になかったもの「高性能断熱材ネオマフォーム」。

詳しくは www.asahi-kasei.co.jp

昨日まで世界になかったものを。

AsahiKASEI